

四半期報告書

第79期第3四半期 自 平成28年10月1日
至 平成28年12月31日

株式会社 岡三証券グループ

(E03756)

目 次

頁

表 紙

| | |
|-------------------------------|----|
| 第一部 企業情報 | 1 |
| 第1 企業の概況 | 1 |
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容 | 1 |
| 第2 事業の状況 | 2 |
| 1 事業等のリスク | 2 |
| 2 経営上の重要な契約等 | 2 |
| 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 2 |
| 第3 提出会社の状況 | 7 |
| 1 株式等の状況 | 7 |
| (1) 株式の総数等 | 7 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 7 |
| (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 7 |
| (4) ライツプランの内容 | 7 |
| (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 7 |
| (6) 大株主の状況 | 7 |
| (7) 議決権の状況 | 7 |
| 2 役員の状況 | 8 |
| 第4 経理の状況 | 9 |
| 1 四半期連結財務諸表 | 10 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 10 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 12 |
| 四半期連結損益計算書 | 12 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 14 |
| 注記事項 | 15 |
| 2 その他 | 17 |
| 第二部 提出会社の保証会社等の情報 | 18 |

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

| | |
|------------|---|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成29年2月13日 |
| 【四半期会計期間】 | 第79期第3四半期（自平成28年10月1日至平成28年12月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社岡三証券グループ |
| 【英訳名】 | OKASAN SECURITIES GROUP INC. |
| 【代表者の役職氏名】 | 取締役社長 新芝 宏之 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都中央区日本橋一丁目17番6号 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。） |
| 【電話番号】 | 03（3272）2222（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 岡三証券株式会社 経理部長 中上 忠 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都中央区日本橋室町二丁目2番1号 室町東三井ビルディング |
| 【電話番号】 | 03（3272）2211（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 岡三証券株式会社 経理部長 中上 忠 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第78期 第3四半期 連結累計期間 | 第79期 第3四半期 連結累計期間 | 第78期 |
|----------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 会計期間 | 自平成27年 4月1日 至平成27年 12月31日 | 自平成28年 4月1日 至平成28年 12月31日 | 自平成27年 4月1日 至平成28年 3月31日 |
| 営業収益 (百万円) | 64,382 | 60,281 | 82,927 |
| 経常利益 (百万円) | 15,407 | 11,405 | 17,396 |
| 親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円) | 9,254 | 7,989 | 11,068 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 12,024 | 11,335 | 8,225 |
| 純資産額 (百万円) | 175,905 | 176,500 | 172,097 |
| 総資産額 (百万円) | 584,477 | 490,430 | 515,743 |
| 1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円) | 46.77 | 40.32 | 55.94 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円) | 46.76 | 40.26 | 55.92 |
| 自己資本比率 (%) | 25.6 | 31.7 | 28.4 |

| 回次 | 第78期 第3四半期 連結会計期間 | 第79期 第3四半期 連結会計期間 |
|-------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 会計期間 | 自平成27年 10月1日 至平成27年 12月31日 | 自平成28年 10月1日 至平成28年 12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 14.94 | 16.18 |

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、当初は足踏み状態が続きましたが、徐々に底入れの動きが出てきました。輸出は全体では冴えないものの一部新興国向けは持ち直し、生産も回復の動きが見られました。また、雇用情勢の改善が続くなか、個人消費関連の指標においても小売業販売統計や新車販売台数など一部で底入れの兆しが見られました。

為替市場では、英国民投票でのEU離脱派勝利などを受けて一時金融市場が不安定となり、ドル円相場は6月に一時1ドル=99円台まで円高ドル安が進みました。しかし、11月の米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことをきっかけにリスク選好の流れが強まったこと、さらに12月には米国の利上げにより円安ドル高が進み、1ドル=116円台で12月末の取引を終了しました。また、ユーロ円相場は、英国民投票を巡って波乱となる場面はあったものの年末にかけて強含みとなり、12月末は1ユーロ=122円台で取引を終了しました。

株式市場は、海外株式市場や為替市場の影響を大きく受け、乱高下しました。円高による国内企業の業績悪化懸念に加えて6月の英国民投票の結果も重しとなり、日経平均株価は一時15,000円を下回りましたが、売り一巡後は買い戻しの動きも見られました。また、11月の米大統領選挙後は、トランプ新政権に対する期待に加え、急速な円安ドル高の進行も追い風となり、日経平均株価は12月に19,000円の大台を回復しました。その後も年末にかけて堅調な推移となり、大納会の日経平均株価は19,114円37銭で取引を終了しました。

債券市場は、根強い金融緩和期待や日銀の国債買入れオペに支えられて堅調に推移し、10年国債利回りは7月に一時マイナス0.30%まで低下しました。ただ、その後は追加の金融緩和が見送られ、9月には日銀が10年国債利回りをゼロ%程度で推移するよう操作する方針を示したことから、利回りは上昇に転じました。11月には米大統領選挙の結果を受けて世界的に長期国債利回りが上昇し、10年国債利回りはプラスに回復しましたが、日銀の緩和的な金融政策に支えられ、欧米主要国に比べて利回りの上昇は小幅にとどまりました。

このような状況のもと、中核子会社の岡三証券株式会社においては、地域旗艦店舗の移転リニューアルを進めるなど営業機能を強化するとともに、市況に即した投資情報と多様な商品ラインアップを活用した地域密着型の営業活動を引き続き展開しました。一方、インターネット取引専門の岡三オンライン証券株式会社においては、操作性や機能性を追求した新たな発注ツールの提供や投資信託積立サービスの導入、株価指数証拠金取引や先物・オプション取引の新商品の取扱い開始など、サービスの一層の拡充を図りました。また、岡三アセットマネジメント株式会社においては、パフォーマンスの向上やタイムリーな情報発信に努めるとともに、市場環境の変化に対応すべく、毎月決算型投信の分配金見直しや公社債投信の繰上償還等を行う一方、機関投資家向けに私募投信の提案を積極的に行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの営業収益は602億81百万円（前年同期比93.6%）、純営業収益は594億29百万円（同93.8%）となりました。販売費・一般管理費は487億60百万円（同95.7%）となり、経常利益は114億5百万円（同74.0%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は79億89百万円（同86.3%）となりました。

① 損益の概況

受入手数料

受入手数料の合計は346億29百万円（前年同期比76.4%）となりました。主な内訳は次のとおりです。

| | 前第3四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日） （百万円） | 当第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日） （百万円） |
|----------------------------|---|---|
| 委託手数料 | 16,624 | 12,122 |
| 引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料 | 463 | 277 |
| 募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料 | 12,196 | 9,353 |
| その他の受入手数料 | 16,061 | 12,876 |
| 合計 | 45,345 | 34,629 |

a. 委託手数料

当第3四半期連結累計期間における東証の1日平均売買高（内国普通株式）は25億73百万株（前年同期比89.1%）、売買代金は2兆7,317億円（同88.7%）となりました。こうしたなか、株式委託手数料は115億38百万円（同74.7%）となりました。また、債券委託手数料は12百万円（同329.5%）、その他の委託手数料は5億70百万円（同48.5%）となり、委託手数料の合計は121億22百万円（同72.9%）となりました。

b. 引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料

当第3四半期連結累計期間においては、株式市場の動きが概ね堅調に推移したものの、国内金利は長期的に見て引き続き低い水準にあるとの見方から債券での資金調達が続く活発な状況となりました。このため、株式の引受けは件数・金額ともに前年同期比で減少となった一方、債券の引受けでは、地方債や事業債の主幹事を務めたことに加え大型案件の引受けを行うなど実績を重ねました。

これらの結果、株式の手数料は1億53百万円（前年同期比40.9%）、債券の手数料は1億23百万円（同142.5%）となり、株式・債券を合わせた引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料の合計は2億77百万円（同59.9%）となりました。

c. 募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料、その他の受入手数料

募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料、その他の受入手数料につきましては、投資信託関連収益がその大半を占めています。

当第3四半期連結累計期間においては、ハイイールド債券や公益株を含む高配当株式等で運用する、相対的に高い利回りが期待できるファンドの販売が比較的順調でした。また、米国株式やコモディティ価格が堅調に推移した年後半にかけては、原油価格回復の恩恵を受ける原油関連企業に投資するファンドや、成長が期待されるAI関連企業に投資するファンドのほか、米国の銀行株に投資するファンドなどを導入し、米大統領選挙後のリスク選好の動きにも合致した商品の拡充を図りました。

しかしながら、前年同期比で販売金額が減少したことから、募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料は93億53百万円（前年同期比76.7%）となりました。また、その他の受入手数料についても、投資信託の信託報酬減少などにより128億76百万円（同80.2%）となりました。

トレーディング損益

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日) (百万円) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) (百万円) |
|---------------|---|---|
| 株券等トレーディング損益 | 7,842 | 15,034 |
| 債券等トレーディング損益 | 8,691 | 9,191 |
| その他のトレーディング損益 | 159 | △251 |
| 合計 | 16,693 | 23,974 |

株券等トレーディング損益は主に米国株式を中心とした外国株式の国内店頭取引、債券等トレーディング損益は外国債券の顧客向け取扱いに伴う収益がその大半を占めています。

当第3四半期連結累計期間においては、米大統領選挙を控えた時期に一時的なリスク回避の動きが見られましたが、選挙後は円安ドル高が進み、株価も堅調に推移しました。

これらの結果、株券等トレーディング損益は150億34百万円（前年同期比191.7%）、債券等トレーディング損益は91億91百万円（同105.8%）となり、その他のトレーディング損益2億51百万円の損失（前年同期は1億59百万円の利益）を含めたトレーディング損益の合計は239億74百万円（前年同期比143.6%）となりました。

金融収支

金融収益は10億88百万円（前年同期比62.5%）、金融費用は8億51百万円（同84.3%）となり、差引の金融収支は2億37百万円（同32.4%）となりました。

その他の営業収益

金融商品取引業及び同付随業務に係るもの以外の営業収益は、5億88百万円（前年同期比97.8%）となりました。

販売費・一般管理費

販売費・一般管理費は、取引関係費や人件費の減少等により、487億60百万円（前年同期比95.7%）となりました。

営業外損益及び特別損益

営業外収益は8億57百万円、営業外費用は1億21百万円となりました。また、特別利益は金融商品取引責任準備金戻入の計上等により16億50百万円、特別損失は2億93百万円となりました。

② セグメント別の業績状況

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

証券ビジネス

証券ビジネスにおいては、株式委託手数料や投資信託の販売にかかる手数料の減少等が影響し、当第3四半期連結累計期間における証券ビジネスの営業収益は532億83百万円（前年同期比96.8%）、セグメント利益は93億79百万円（同95.7%）となりました。

アセットマネジメントビジネス

アセットマネジメントビジネスにおいては、パフォーマンスの向上やタイムリーな情報発信に努めるとともに、市場環境の変化に対応すべく、毎月決算型投信の分配金見直しや公社債投信の繰上償還等を行う一方、機関投資家向けに私募投信の提案を積極的に行いました。これらの結果、当第3四半期連結累計期間におけるアセットマネジメントビジネスの営業収益は95億15百万円（前年同期比73.6%）、セグメント利益は10億74百万円（同47.4%）となりました。

サポートビジネス

当第3四半期連結累計期間におけるサポートビジネスの営業収益は89億59百万円（前年同期比101.0%）、セグメント利益は3億4百万円（同37.3%）となりました。

なお、上記のセグメント別営業収益には、セグメント間の内部営業収益又は振替高が含まれております。

(2) 財政状態に関する分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ253億12百万円減少し4,904億30百万円となりました。これは主に、有価証券担保貸付金が80億86百万円、預託金が73億14百万円増加した一方で、トレーディング商品が371億26百万円、現金・預金が36億24百万円、信用取引資産が35億48百万円減少したことによるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ297億15百万円減少し3,139億30百万円となりました。これは主に、預り金が173億29百万円、有価証券担保借入金が130億87百万円、トレーディング商品が107億36百万円増加した一方で、短期借入金が635億48百万円、長期借入金が26億32百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ44億2百万円増加し1,765億円となりました。これは主に、資本剰余金が34億40百万円、利益剰余金が31億17百万円、その他有価証券評価差額金が21億89百万円増加した一方で、非支配株主持分が45億87百万円減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

① 対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

② 会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

基本方針の内容の概要

当社は、上場企業である以上、本来、当社株券等の大規模買付行為は自由であり、誰が当社を支配するかは、最終的には当社株主の皆さまの判断に委ねられるべきもので、当社の経営方針とそれにより実現される企業価値をご理解いただいた上で、当社株主の皆さまに、適切に判断いただくべきものであると考えます。また、当社株券等に対する大規模な買付行為が行われた場合には、その大規模買付行為の内容、大規模買付行為が当社及び当社グループに与える影響、大規模買付者が考える当社及び当社グループの経営方針や事業計画の内容、お客さま、従業員等の当社及び当社グループを取り巻く多くの利害関係者に対する影響、そして、大規模買付行為以外の代替案の有無等について、大規模買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供され、かつ提供された情報を十分に検討するための期間と機会が確保されることが必要だと考えます。

そのためには、大規模買付行為に際して、a. 大規模買付者は当社取締役会に対して大規模買付行為に先立ち必要かつ十分な情報を提供しなければならず、b. 当社取締役会が当該情報を検討するために必要な一定の評価期間が経過した後のみ、大規模買付者は大規模買付行為を開始することができるという「大規模買付ルール」を設けるとともに、当該ルールが有効に機能するために必要な方策を整え、明らかに当社の企業価値及び当社株主の皆さまの共同の利益を害するような濫用的買収に対して、会社として対抗策をとることができなければならないと考えております。

基本方針実現のための取組みの具体的な内容の概要

当社は、上記基本方針実現のための取組みとして、次に掲げる内容の「大規模買付行為への対応方針」を導入し、平成28年6月29日開催の当社第78期定時株主総会において承認決議されております。

- a. 大規模買付者が大規模買付行為を行おうとする場合は、以下の「大規模買付ルール」に従わなければならないこと。
 - (ア) 大規模買付者は当社取締役会に対して大規模買付行為に先立ち必要かつ十分な情報を提供しなければならないこと。
 - (イ) 必要な情報提供を受けた後、当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成及び代替案立案のための期間（以下、「評価期間」といいます。）として、60日間又は90日間が与えられること。
 - (ウ) 大規模買付行為は、評価期間経過後にのみ開始されるべきこと。
- b. 大規模買付ルールを遵守しない大規模買付者に対しては、新株予約権の無償割当を内容とする対抗策をとりうること。
- c. 大規模買付ルールが遵守されても、大規模買付者による会社の支配が会社に回復しがたい損害をもたらすとき等には、当社は新株予約権の無償割当を内容とする対抗策をとりうること。
- d. 当社取締役会は、対抗策の発動については社外取締役又は社外有識者等により構成される独立委員会の勧告に原則として従うこと。

具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

- a. 当該取組みが基本方針に沿うものであること
 - (ア) 大規模買付ルールが遵守される限り、原則として対抗策はとらないこととなっており、誰が会社を支配するかは当社株主の皆さまにおいて決める仕組みとなっております。
 - (イ) 大規模買付者に十分な情報の提供を求めるとともに、情報の提供をしない大規模買付者には対抗策を発動することを警告することによって、情報提供のインセンティブを与えております。
 - (ウ) 濫用的買収に対しては、会社は対抗策をとりうる制度設計となっております。
- b. 当該取組みが株主共同の利益を損なうものではないこと
対抗策をとりうるのは、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しないか、会社に回復しがたい損害をもたらすなどの濫用的買収の場合に限定されており、対抗策は基本的には情報提供のインセンティブを与えるものであります。
- c. 当該取組みが当社役員の地位の維持を目的とするものではないこと
対抗策をとりうる場合が厳しく限定されており、しかも、当社取締役会は独立委員会の勧告に原則として従わなければならないため、当社取締役会の恣意的判断が排除される仕組みとなっております。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 750,000,000 |
| 計 | 750,000,000 |

②【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成29年2月13日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|---|-----------------------------|------------------------------------|-----------------|
| 普通株式 | 208,214,969 | 208,214,969 | 東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部 | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 208,214,969 | 208,214,969 | — | — |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|----------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成28年10月1日～ 平成28年12月31日 | — | 208,214,969 | — | 18,589 | — | 12,766 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成28年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------------|----------|----------------------|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式(自己株式等) | — | — | — |
| 議決権制限株式(その他) | — | — | — |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 8,419,000 | — | — |
| | (相互保有株式) 3,399,000 | — | — |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 194,699,000 | 194,699 | — |
| 単元未満株式 | 普通株式 1,697,969 | — | 1単元(1,000株) 未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 208,214,969 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 194,699 | — |

(注)「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が7,000株(議決権7個)含まれております。

②【自己株式等】

平成28年9月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有 株式数(株) | 他人名義所有 株式数(株) | 所有株式数の 合計(株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%) |
|----------------------|------------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) | | | | | |
| 株式会社岡三証券 グループ | 東京都中央区日本橋 一丁目17-6 | 8,419,000 | — | 8,419,000 | 4.04 |
| 計 | — | 8,419,000 | — | 8,419,000 | 4.04 |
| (相互保有株式) | | | | | |
| 岡三アセットマネジ メント株式会社 | 東京都中央区八重洲 二丁目8-1 | 1,348,000 | — | 1,348,000 | 0.65 |
| 岡三興業株式会社 | 東京都中央区日本橋 小網町9-9 | 1,101,000 | — | 1,101,000 | 0.53 |
| 岡三にいがた証券株式 会社 | 新潟県長岡市大手通 一丁目5-5 | 565,000 | — | 565,000 | 0.27 |
| 岡三ビジネスサービス 株式会社 | 東京都中央区日本橋 本町四丁目11-5 | 385,000 | — | 385,000 | 0.18 |
| 計 | — | 3,399,000 | — | 3,399,000 | 1.63 |

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）並びに同規則第61条及び第82条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」（昭和49年11月14日付日本証券業協会自主規制規則）に準拠して作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金・預金 | 57,300 | 53,676 |
| 預託金 | 58,842 | 66,156 |
| 顧客分別金信託 | 56,150 | 63,550 |
| その他の預託金 | 2,692 | 2,606 |
| トレーディング商品 | 170,851 | 133,725 |
| 商品有価証券等 | 170,823 | 133,586 |
| デリバティブ取引 | 28 | 138 |
| 信用取引資産 | 42,341 | 38,793 |
| 信用取引貸付金 | 38,795 | 32,441 |
| 信用取引借証券担保金 | 3,546 | 6,352 |
| 有価証券担保貸付金 | 95,461 | 103,547 |
| 借入有価証券担保金 | 95,461 | 103,547 |
| 立替金 | 90 | 154 |
| 短期差入保証金 | 2,069 | 3,322 |
| 有価証券等引渡未了勘定 | 1 | — |
| 短期貸付金 | 217 | 259 |
| 有価証券 | 2,003 | 94 |
| その他の流動資産 | 6,008 | 6,867 |
| 貸倒引当金 | △0 | △4 |
| 流動資産計 | 435,187 | 406,594 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 19,594 | 19,294 |
| 無形固定資産 | 9,869 | 12,142 |
| 投資その他の資産 | 51,091 | 52,399 |
| 投資有価証券 | 43,968 | 45,557 |
| 退職給付に係る資産 | 394 | 346 |
| その他 | 8,296 | 7,972 |
| 貸倒引当金 | △1,567 | △1,476 |
| 固定資産計 | 80,555 | 83,836 |
| 資産合計 | 515,743 | 490,430 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| トレーディング商品 | 77,206 | 87,942 |
| 商品有価証券等 | 77,194 | 87,915 |
| デリバティブ取引 | 11 | 26 |
| 約定見返勘定 | 16,146 | 14,814 |
| 信用取引負債 | 10,468 | 11,474 |
| 信用取引借入金 | 3,617 | 3,307 |
| 信用取引貸証券受入金 | 6,850 | 8,167 |
| 有価証券担保借入金 | 24,737 | 37,825 |
| 有価証券貸借取引受入金 | 24,737 | 37,825 |
| 預り金 | 27,528 | 44,858 |
| 受入保証金 | 36,284 | 35,280 |
| 有価証券等受入未了勘定 | 31 | — |
| 短期借入金 | 109,534 | 45,985 |
| 未払法人税等 | 1,251 | 1,269 |
| 賞与引当金 | 1,830 | 822 |
| その他の流動負債 | 5,937 | 4,202 |
| 流動負債計 | 310,957 | 284,476 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 12,300 | 9,668 |
| 役員退職慰労引当金 | 113 | 118 |
| 退職給付に係る負債 | 5,626 | 5,737 |
| その他の固定負債 | 12,006 | 12,600 |
| 固定負債計 | 30,045 | 28,124 |
| 特別法上の準備金 | | |
| 金融商品取引責任準備金 | 2,642 | 1,330 |
| 特別法上の準備金計 | 2,642 | 1,330 |
| 負債合計 | 343,645 | 313,930 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 18,589 | 18,589 |
| 資本剰余金 | 12,982 | 16,422 |
| 利益剰余金 | 106,668 | 109,785 |
| 自己株式 | △3,789 | △3,781 |
| 株主資本合計 | 134,450 | 141,016 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 11,370 | 13,560 |
| 土地再評価差額金 | 400 | 401 |
| 為替換算調整勘定 | 179 | 303 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △40 | △4 |
| その他の包括利益累計額合計 | 11,911 | 14,261 |
| 新株予約権 | 87 | 161 |
| 非支配株主持分 | 25,648 | 21,061 |
| 純資産合計 | 172,097 | 176,500 |
| 負債・純資産合計 | 515,743 | 490,430 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) |
|--------------------------------|--|--|
| 営業収益 | | |
| 受入手数料 | 45,345 | 34,629 |
| 委託手数料 | 16,624 | 12,122 |
| 引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等 等の手数料 | 463 | 277 |
| 募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等 の取扱手数料 | 12,196 | 9,353 |
| その他の受入手数料 | 16,061 | 12,876 |
| トレーディング損益 | 16,693 | 23,974 |
| 金融収益 | 1,741 | 1,088 |
| その他の営業収益 | 601 | 588 |
| 営業収益計 | 64,382 | 60,281 |
| 金融費用 | 1,010 | 851 |
| 純営業収益 | 63,372 | 59,429 |
| 販売費・一般管理費 | 50,937 | 48,760 |
| 取引関係費 | 11,356 | 9,663 |
| 人件費 | 25,055 | 24,059 |
| 不動産関係費 | 4,675 | 5,020 |
| 事務費 | 4,255 | 4,348 |
| 減価償却費 | 2,406 | 2,646 |
| 租税公課 | 665 | 893 |
| 貸倒引当金繰入れ | △3 | 18 |
| その他 | 2,526 | 2,109 |
| 営業利益 | 12,434 | 10,669 |
| 営業外収益 | 3,199 | 857 |
| 受取配当金 | 486 | 507 |
| 持分法による投資利益 | 2,458 | 31 |
| 受取補償金 | — | 100 |
| その他 | 254 | 218 |
| 営業外費用 | 226 | 121 |
| 支払利息 | 63 | 53 |
| 固定資産除売却損 | 16 | 42 |
| 支払補償費 | 123 | — |
| その他 | 22 | 25 |
| 経常利益 | 15,407 | 11,405 |

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 374 | 337 |
| 有価証券売却益 | — | 0 |
| 金融商品取引責任準備金戻入 | — | 1,312 |
| 特別利益計 | 374 | 1,650 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 13 | 92 |
| 投資有価証券売却損 | 82 | 182 |
| 投資有価証券評価損 | 27 | — |
| 有価証券売却損 | — | 0 |
| ゴルフ会員権評価損 | 9 | — |
| 移転関連費用 | — | 18 |
| 金融商品取引責任準備金繰入れ | 13 | — |
| 特別損失計 | 145 | 293 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 15,637 | 12,761 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,622 | 3,586 |
| 法人税等調整額 | 1,005 | 227 |
| 法人税等合計 | 4,627 | 3,814 |
| 四半期純利益 | 11,009 | 8,947 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 1,754 | 957 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 9,254 | 7,989 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 四半期純利益 | 11,009 | 8,947 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 960 | 2,234 |
| 為替換算調整勘定 | 15 | 123 |
| 退職給付に係る調整額 | △59 | 44 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 97 | △15 |
| その他の包括利益合計 | 1,014 | 2,387 |
| 四半期包括利益 | 12,024 | 11,335 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 10,564 | 10,340 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 1,460 | 995 |

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

従業員の金融機関からの借入(住宅借入金債務)に対する債務保証の残高は、次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成28年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日) |
|--------|-------------------------|-------------------------------|
| 被保証者 | 従業員4名 | 従業員3名 |
| 保証債務残高 | 13百万円 | 7百万円 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 2,406百万円 | 2,646百万円 |

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成27年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 4,873 | 25 | 平成27年3月31日 | 平成27年6月29日 | 利益剰余金 |

(注) 配当金の総額は、連結子会社の保有する自己株式にかかる配当金額122百万円を控除しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|-----------|-------|
| 平成28年5月17日 取締役会 | 普通株式 | 4,872 | 25 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月8日 | 利益剰余金 |

(注) 配当金の総額は、連結子会社の保有する自己株式にかかる配当金額122百万円を控除しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注1) | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注2) |
|------------------------|---------|------------------------|--------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 証券ビジネス | アセット マネジメント ビジネス | サポート ビジネス | 合計 | | |
| 営業収益 | | | | | | |
| 外部顧客からの営業収益 | 50,761 | 12,922 | 691 | 64,375 | 7 | 64,382 |
| セグメント間の内部営業収益 又は振替高 | 4,293 | — | 8,179 | 12,472 | △12,472 | — |
| 計 | 55,054 | 12,922 | 8,871 | 76,848 | △12,465 | 64,382 |
| セグメント利益 | 9,803 | 2,264 | 814 | 12,882 | △448 | 12,434 |

- (注) 1. セグメント利益の調整額△448百万円には、セグメント間取引消去等1,998百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,446百万円が含まれております。全社費用は、持株会社としての当社の費用であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注1) | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注2) |
|------------------------|---------|------------------------|--------------|--------|-------------|-------------------------------|
| | 証券ビジネス | アセット マネジメント ビジネス | サポート ビジネス | 合計 | | |
| 営業収益 | | | | | | |
| 外部顧客からの営業収益 | 50,092 | 9,515 | 671 | 60,279 | 2 | 60,281 |
| セグメント間の内部営業収益 又は振替高 | 3,191 | — | 8,287 | 11,479 | △11,479 | — |
| 計 | 53,283 | 9,515 | 8,959 | 71,758 | △11,476 | 60,281 |
| セグメント利益 | 9,379 | 1,074 | 304 | 10,758 | △88 | 10,669 |

- (注) 1. セグメント利益の調整額△88百万円には、セグメント間取引消去等2,045百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,134百万円が含まれております。全社費用は、持株会社としての当社の費用であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) |
|---|--|--|
| (1) 1株当たり四半期純利益金額 | 46円77銭 | 40円32銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円) | 9,254 | 7,989 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(百万円) | 9,254 | 7,989 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 197,854 | 198,180 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 | 46円76銭 | 40円26銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円) | — | — |
| 普通株式増加数(千株) | 68 | 253 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要 | — | — |

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年2月2日

株式会社岡三証券グループ

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 基仁 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 榎倉 昭夫 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 猿渡 裕子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社岡三証券グループの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社岡三証券グループ及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。